

## 弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	胸部大動脈手術における大動脈基部向き送血が心機能へ与える影響		
2. 対象患者	当院で以下の気管に開胸したうえで、上行大動脈送血を用いて胸部大動脈手術を受けた16名を対象とする。		
3. 対象となる期間	2014年 1月 1日 ~ 2019年 4月30日		
4. 実施診療科等	呼吸器外科、心臓血管外科		
5. 研究責任者	氏名	今村優紀	所属 呼吸器外科、心臓血管外科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし		
7. 研究の意義	胸部大血管手術において上行大動脈に重度の粥状硬化を伴う症例では、人工心肺の送血流による大動脈壁のプラーク破綻を起因とした粥状硬化による塞栓症が問題となります。粥状硬化による塞栓症を防止する方法の1つとして、送血管を大動脈基部(心臓側)に向ける方法が報告されています。当科では、実験的にこの方法が有用であることを証明し、臨床的にも脳神経学的障害(脳梗塞等)予防効果があることを示しています。		
8. 研究の目的	術後心機能に与える影響はわかっていません。今回、我々は重度の粥状硬化を伴う症例に対する胸部大血管手術において上行大動脈の基部向き送血が術後心機能に影響を与えるかを検討します。大動脈基部向き送血の有用性について臨床的に証明します。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	診療録からデータを収集します。データの内容としては術前の併存疾患、術前の画像所見(CT,冠動脈造影、頭部MRI,心電図検査、心臓超音波検査)、術中の人工心肺記録、術後の採血検査データ、スワンガンツカテテル(肺動脈カテテル)検査データを用いて検討を行います。		
10. 個人情報の保護	データの使用は、研究結果報告、本課題に関連した学術会議での発表、論文作成に限定する。その際は統計処理後のデータを使用するため、個人が特定されないようプライバシーは保護される。		
11. 利益相反に関する状況	この研究の研究責任者と研究分担者は、弘前大学の倫理委員会、利益相反マネジメント委員会において、関連する企業や団体などと研究の信頼性を損ねるような利害関係を有していないことを確認する。		
12. 連絡先	弘前大学医学部附属病院 呼吸器外科、心臓血管外科 今村優紀		
	電話	0172-39-5074	FAX - -